



日本YMCA基本原則

私たち日本のYMCAは、イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ世界のYMCAとのつながりのなかで、次の使命を担います。

私たちは、すべての人びとが生涯をおして全人的に成長することを願い、すべてのいのちをかけがえのないものとして守り育てます。

私たちは、一人ひとりの人権を守り、正義と公正を求め、喜びを共にし痛みを分かちあう社会をめざします。

私たちは、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現に努めます。

2016年11月1日発行 (毎月1日発行)
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円 (外税) (送料62円)
発行/公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区本塩町7
TEL: 03-5367-6640 FAX: 03-5367-6641
URL: <http://www.ymcajapan.org/>
発行人/島田 茂 編集人/山根 一般
印刷/あかつき印刷株式会社

誰もが神の似姿として平等である

世界YMCA/YWCA合同祈禱週

2016年11月13日 (日) ~19日 (土)

私たちの世界、そして私たちの運動における多様性は素晴らしいものです。その多様性は私たちの信仰、信条、文化、国籍、年齢、背景、階級、そして人種や民族の多様性を表しています。私たちの持つ多様な意見や伝統、慣習は、美しいタペストリーを紡ぎ出す糸のように、この社会をつくり出しています。

私たちは多くの面で異なっているかもしれませんが、一つの根本的な考えにおいて、ほとんど皆が意見を同じくするでしょう。それは、聖書や他の多くの宗教的な文献にも示されている「私たちは神によって、平等につくられた」という考えです。私たちが平等であるということは、私たちの信仰の礎であり、基本的人権でもあります。

公正な社会において、私たちはすべての人びとを受け入れます。そして、誰もが教育や仕事、その他、安全で、健康に、幸せな、尊厳と敬意に満ちた人生を送るために必要なものを得る権利を享受するのです。

しかし残念なことに、私たちの世界の現実はずいぶん異なっています。何百万人もの人びとが人種やジェンダー、信仰、年齢、国籍やその他の要因のために日々、差別に晒されています。他にも、何百万人もの人びとが紛争地帯で生活し、暴力が日常生活の一部と化しています。中には難民としてその状況をしのいでいる人びともいますが、その多くは生きていく上で最低限必要な物すら十分に得られず、基本的人権を行使できないでいます。

そしてこれらのことはすべて、政治的、文化的、あるいは宗教的リーダーが、その影響力を持つ立場と信頼を利用し、憎しみに満ちたメッセージを広め、さらなる

分裂を生み出すことで悪化しています。そうではなく、より安全で、正当な、持続可能な未来のために、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に協力し、人権条約が実施され、そして「世界人権宣言」が順守されるためにこそ、そのリーダーシップを生かすべきです。

2016年合同祈禱週のテーマ「誰も置き去りにしない」は、私たちの多様性に思いをはせ、どうすればそれぞれの個性を尊重し、受け入れ、喜び合うことができるかについて話し合うために定められました。そして同時に、このテーマは誰もが神の目には平等であるように、私たちの目にもお互い平等であるべきだ、ということを感じさせるものです。

世界のYMCA、YWCAが祈りを合わせる1週間のために、今年も作成しましたブックレットを、それぞれの地域の状況に基づいて使用されることをお勧めします。これは、人びとを一つにするために議論し、問題提起を行うために使用することができます。また祈り、考え、協働し、ゆくゆくは多様性が生かされる世界をつくり出すための着想をここから得ることもできます。何よりも、私たちはこのブックレットを通して、「あなた」が人びとを刺激し、変化を促すような存在になることを望みます。変革をもたらすリーダーシップを得て、「あなた」が多様性を受け入れ、平和、正義、理解を促進し、誰も置き去りにしない世界をつくるための働き人になることを求めます。

平和と信仰によって。

(合同祈禱週・あいさつ文)

世界YWCA会長 デボラ・トーマス=オースティン
世界YMCA同盟会長 ピーター・ボスナー

*合同祈禱週は、1901年より全世界のYMCA/YWCAに連なる人たちが、毎年一つのテーマのもとに、聖書からメッセージを聴き、祈りを共にする時として定めています。

レポート

相手と向き合って心を合わせていくこと。(仏教: 善和・共感の関係の意)

「愛している...よりもっとステキ」

日本キリスト教団 石橋教会牧師 仲程 愛美

「人は「I love you.」と「I need you.」のどちらを言われたらうれしいか?」

ある教授が学生たちに尋ねました。ほとんどの学生が「I love you.」だと答えます。その理由として、相手からのあふれる思いが伝わるから、人が思いを伝える上での最上級の言葉だからなど、さまざまな意見が挙がりました。何を隠そう、その場にいた私も迷わず「I love you.」を選んでいました。挙げられる意見にうなずきながら、ふと脳裏に「神はあなたを愛しておられる」というフレーズがよぎりました。どう考えてもうれしいのはやはり「愛している」だろう。ところが、教授の答えは「I need you.」でした。そして続けて、イエスは何人の人に直接「愛している」と言ったか、と問われたのです。

人びとと出会われたイエス。その多くは周りから見下されていたり、嫌われていたり、虐げられていたり、厄介者扱いされるような人ばかりでした。イエスの弟子と呼ばれた人たちの多くも、実はそのような人ばかりでした。社会には受け入れられず、はみ出し者とされた人びとが弟子となり、イエスについていったのです。彼らの人生に突然訪れたイエスと

の出会い、今までの人生をすべて投げ捨てても構わないほどの衝撃でした。

それほど劇的な出会いの場面でイエスが呼び掛けられた言葉は、「わたしに従いなさい」でした。これは、私の人生においてあなたが必要だというメッセージです。今、目の前にいるあなたと共に歩みたい。条件や理由は何一つ語られません。ただついてくるだけでいいと言われるのです。

この出会いの言葉は、周りから受け入れてもらえない状況にあった人びとにとって、どれほど強力な呼びかけだったのでしょうか。「こんな私をも必要としてください、呼びかけてくださる!」、自分の存在のすべてを肯定してもらった瞬間、新しい人生がスタートしたのです。

人は誰かに必要とされることによって、自分の存在を肯定しようとするのかもしれませんが。イエスは、そうした私たちに一番の言葉をかけてくださいます。

「わたしに従いなさい。あなたが必要だから」と、一人ひとりを招いてくださっているのです。



「地塩寮」名前の由来は？
新約聖書のマタイによる福音書5章13節「あなたがたは地の塩である」より。

京都大学YMCA地塩寮

入寮1年目から、国内外のYMCAプログラムに参加!

1年目から、私は驚くほどたくさんの方と関わらせていただきました。個性豊かな寮の皆さんはもちろん、8月の京都地区プログラム(大阪・鶴橋)、9月の全国学生YMCA夏期セミナー(東山荘)*や12月の日中韓YMCA平和フォーラム(中国・南京)などを通して、世代や地域をこえて人と出会い、意見を交わすことができました。入寮の動機でもあった「いろいろな人と関わりたい」という私の願いは実現しました。

*夏期セミナーについては、4面「NEWS」をご覧ください。

「住み心地抜群」の地塩寮

寮の建物は4階建て、1階にシャワー室・洗濯場・食堂などの共有スペース、2~4階は個室が並んだ生活スペースです。部屋は4.3畳と少々狭いですが、各自壁紙を張り替えたり、家具を持ち込んだりして、快適な生活を送っています。テレビやゲーム機などの娯楽設備も備えた食堂は広々としており、映画好きな寮生による上映会や、季節のイベント(花見やクリスマス)を企画するなど、寮生同士が交流を深める場になっています。



寮父の小坂さんってどんな人?

京都大学出身で地塩寮の寮生でもあった小坂さんは、私たちの相談に親身に答えてくださいます。私と共通の趣味であるソフトボールで盛り上がることも!



寮生たちの大先輩、小坂勝弥さん

最後に!

多くの人との関わりは、私が学Y寮に入って得た何物にも替え難いもの。おかげで、視野を広げ、自分を問い直し、少しずつ成長してきたように感じます。これから地塩寮に入られる皆さんとも、一緒に成長していけたらうれしいです!

★ 昨年スタートした「京都地区プログラム」

同じ敷地内にある、日本YMCA同盟関西主事宅、京都府立医科大学YMCAとの共催プログラムで、京大Yを含めた三者の交流を主たる目的としています。

第1回は鶴橋を訪れ、在日韓国・朝鮮人の方のお話を聞くなどのフィールドワークを行いました。「若いころは日本名を名乗っていたけれど、大人になってから自分のアイデンティティを意識し、本名を名乗ることに抵抗を感じなくなった。今は本名に誇りを持っている」というエピソードが心に残りました。



誕生日を祝う「ケリラサキ焼きパーティー」。カメラを向けるとシャイな寮生たち

聖書研究会では、こんな話も

月に1度の聖書研究会は、日本ナザレン教団花園教会の藤澤俊一郎牧師をお呼びして行います。最近のマイニュースなどのアイスブレイクから始まり、寮生の発題箇所を中心に日頃感じていることや考えていることを共有します。

★ 「命を捨ててもいいと思える人いる?」

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」とよく知られる新約聖書のヨハネによる福音書15章11~17節を読んだの問い掛けが、これでした。友達や父母のためなら命を投げ出せるという人もいれば、やっぱり自分が大切……という人も。普段はなかなか話すことのないテーマです。

「いろいろな人と関わりながら大学生活を送りたい!」が、かなう場所

地塩寮は、京都大学から徒歩10分の男女共同寮。現在の寮生は29人(男性21人、女性8人)で、京都大学の学部生が大半を占めています。大学院生や他大学の学生もおり、多様なバックグラウンドが構成されています。

佐々木 莉奈(入寮2年目、京都大学経済学部2年)



京都地区プログラムで、朝鮮の民族衣装「チマチョリ」を着る佐々木さん(左)



「汝羊寮」名前の由来は？
旧約聖書のエゼキエル書34章31節「汝等是我が羊、我が牧場の群れなり」より。

北海道大学YMCA汝羊寮

毎週金曜の夜は、「学Y集会」と「寮集会」!

一番にぎやかなのは金曜の夜。「学Y集会(18時30分~21時)」ではテーマに沿った議論を繰り広げ、「寮集会(21時30分~23時ころ)」では自治寮として運営する上で、会計から、果ては将来の建て替えのことまで多岐にわたる話し合いをしています。

★ 汝羊寮の「学Y集会」とは?

担当者がテーマを設定して発題し、議論する時間。「自由発題」と「キリスト教発題」の2種類があり、前者では社会問題から趣味まで寮生のさまざまな興味を共有し、後者では聖書の内容や宗教としてのキリスト教について研究や発表を行います。



学Y集会は、寮生全員が参加

★ ある日の「学Y集会」

入寮1年目・高品質の自由発題「職業と人工知能」
人工知能が発展していく現代。「将来は人工知能に職業を奪われて失業者が溢れ出すのではない?」というテーマでの議論。人工知能を恐れる高品質の「どうすれば人工知能の発展によってヒトが失業する可能性を排除できるか?」というテーマに対して、それと真逆の「人工知能が発展すれば人間が単純労働から解放されてより生産的・創造的な活動に勤しめる」という意見が出たのが印象的でした。

おいすぎるご飯!

毎朝毎晩、寮母・細貝さんのご飯を食べながら、今日はこれから部活だ、サークルでこんなことがあった、明日の課題なんだっけ? テスト終わった! オレは終わってない! チクショー、などなど。腹も心も満たされて眠る。ああ、なんと幸せなことか! 皆で談笑しながら、人間の一次欲求かつ生命の根拠たる食欲を存分に満たしてくれるのは、細貝さんのおいしい料理です!

寮母の細貝さんってどんな人?

ひと言で言うと、厳しくも優しい昭和の母! 普段は優しく、それでいてだらしない点や雑な点はきつちり叱る。昔ながらの義理人情を教えてくれる。現代では貴重なタイプの素敵なおばさまです。



寮生思いの、細貝リツ子さん

イチオシの寮生紹介!入寮1年目・平尾

僕と同じ生物科学科2年生。朝ご飯を食べながら、細菌にDNAを導入して遺伝子組換えする話をしげにしてくれます。そんな彼は、僕から汝羊寮の話を聞いて、楽しそうだと入寮したツワモノです。

突然「勉強会しようぜ!」と一緒に生物の教科書(500ページくらい)を読む会を2人で開いてみたり、「この夏、実験に明け暮れようぜ!」と大腸菌実験に引き込んでみたり……。10月末にはその実験結果を持ってポスターと一緒にプレゼンをするようになりました。

★ 「ポスターのプレゼン」とは?

僕と平尾はIGEM(アイジェム)という、大腸菌遺伝子組換えをして大腸菌を生物ロボットにする北大サークルに所属しています。IGEMは、毎年10月末にボストンにあるマサチューセッツ工科大学で行われる世界大会で、自分たちの作った生物ロボットについてのプレゼンを行うのです!



バーベキューパーティー。左から、筆者の岸本、人工知能発題の高品質、生物大好きな平尾

家族や知人に北大への進学を決めた方がいたら、「YMCAの面白い寮があるみたいだよ」と紹介してください。掛け替えのない経験ができることを、自信を持って保証します!

最後に!

「僕たち寮生は、こんなものでできている!」
岸本 悠佑(入寮2年目、北海道大学理学部2年)

学生YMCA寮の場合

「あたりまえ」のようでも、特別な毎日

全国34の大学でYMCA運動を行うYMCAを、都市YMCAに対し「学生YMCA(学Y)」と言います。
学Yには、24の学内サークルと10の学生寮があります。所属する450人の内、現在約140人が、各地の寮で生活しています。
学内サークルではボランティア活動、聖書研究会、フィールドワークなどのサークル活動を、学生寮では寮生自ら寮を管理・運営する「自治運営」を基本とする共同生活を行っています。
今回は、120歳以上続く学Y寮を紹介いたします。大いに語り、笑い、食へ、互いに学び、支え合いながら共に生きる、寮生たちの毎日です。

● 学生YMCAと寮のあゆみ

1880年、日本最初のYMCAが東京で創立しましたが、学生YMCAの萌芽は、そのころすでにありました。1876年、熊本洋学校教師L.L.シエンズに導かれた青年たちが、「一致協力して信仰を守り、キリスト教を日本に広めよう」と誓って「熊本バンド」を結成。また1877年には札幌農学校でW.S.クラークの影響を受けた内村鑑三や新渡戸稲造らにより、「イエスを信じる者たちの群れ」が生れました。こうした青年たちの運動は、それぞれ「熊本大学YMCA花陵会」「北海道大学YMCA汝羊会」と実を結んでいきました。
「学生YMCA」としては、1887年東京高等商業学校(現・一橋大学)での自発的な集いの開始を経て、1888年に「東京帝大生基督教青年会」が発足したところから、その歩みが始まったと考えられています。

また、学生YMCAの寄宿舎は、明確な記録に残るものとしては、1898年に本郷台町に建設された東京帝国大学YMCA(現在の東大Y)が最初でした。
北米YMCAから最初の協力主事として派遣されたJ.T.スウィフトや、後任のG.M.ライツシャーの財政支援によって生まれた寄宿舎は、彼らの熱心な指導のもと、吉野作造(東大Y)、木下順二(熊大Y)、日野原重明(京大Y)といった、社会をリードする人びとを輩出していきます。共に折り、行動してきた先人たちの歩みは、寮生による自治や聖書研究、国内外のYMCAを通じた出会いとながらの中で、今も継承されているのです。



J.T.スウィフトたちと「東京帝大生基督教青年会」創始者たち

● 先輩は語る

忘れられない「言葉たち」

熊本大学YMCA花陵会OB・外資系半導体メーカー勤務 芳尾 桂

忘れられない「言葉たち」があります。それらは、友人の言葉だったり、好きなミュージシャンの言葉だったり……。普段、日々の業務に追われているうちはすっかり忘れていたのですが、折に触れて想起する「言葉たち」です。
中には、聖書の言葉もあります。「小さいことに忠実であったら大きなことを任せよう」(マタイによる福音書23章)。私はキリスト者であるものの、今は40代後半、忙しさを言い訳に、教会にははまったくと言っていないほど足が向いていないので、言葉を想起するのはジネの現場というところになります。つまり、さまざま、一見小さきビジネスマナーに立ち向かわざるを得ない時、この言葉を思い出し、自分奮い立たせているのです。

そしてもう一つ、よく思い返す言葉があります。「よしおくんは、社会にビジネスに、今は羽ばたいてるんだね。今は離れる時なんだよ。そのうちにきつと帰ってくる時期があるよ」
私は20代も後半に入ったころ、所属していた熊本大学YMCA花陵会の100周年誌の編集に関わることになり、「OBの歴史を尋ねる旅」という取材を行いました。この時、私にこの言葉を掛けてくださったのは、現在、東京コスモスワイズメンズクラブ会長の権藤徳彦さんでした。権藤氏をはじめ、諸先輩方と出会い、100枚以上の取材メモを取ったこの旅は、私の原点の一つとなりました。

若いころにいい先輩に出会える環境があったというのは、何ものにも替え難い経験でした。そのような環境が熊本大学YMCA花陵会にはあるということに、20年以上たった今も、大変感謝する以外はないのです。

新入寮生募集 「一生の友」との出会いが、あなたを待っています!

全国10大学にある学生YMCA寮では、新入寮生の募集を行います。寮の仲間やOBOG、国内外のYMCA活動を通して得られる人との出会いは、あなたの可能性を広げます。

寮の特徴	募集要項
● 全寮個室完備。寮費月1万円~5万円程度とリーズナブル(光熱費他込)。 ● いずれも比較的大学に近く、通学に便利な立地。 ● 朝・夕の食事(寮費)付の寮もあります。 ※ 入寮条件や申込方法は各寮によって異なりますので、直接お問い合わせください。	
① 北海道大学 YMCA汝羊寮	札幌市北区北12条西2丁目1-20 TEL:011-736-9918 hokudaiymca@gmail.com
② 東北大学 YMCA漢水寮	仙台市太白区大崎町8-1 TEL:022-249-3564 kelsuiyo@yahoo.co.jp
③ 東京大学 YMCA	東京都文京区向丘1-20-6 TEL:03-3811-1778 todaiymca@gmail.com
④ 早稲田大学 YMCA信愛学舎	東京都新宿区西早稲田2-5-2 TEL:03-3203-2858 shinaigakusha@gmail.com
⑤ 一橋大学 YMCA一橋寮	東京都国立市東1-20-12 TEL:042-843-0542 ymca.dormitory@gmail.com
⑥ 京都大学 YMCA地塩寮	京都市左京区古田牛ノ宮町21 TEL:075-751-9744 chien.de.yukkuni@yahoo.co.jp
⑦ 京都府立医科大学 YMCA橘寮	京都市左京区古田牛ノ宮町22 TEL:075-771-6913 kisseiryoyu@yahoo.co.jp
⑧ 九州大学 YMCA名島寮	福岡市東区名島2-5-18 TEL:092-661-6690_2011raijma@gmail.com
⑨ 長崎大学 YMCA浦山寮	長崎市上鏡座町3-13 TEL:095-846-9241 hozannyou@freeml.com
⑩ 熊本大学 YMCA花陵会	熊本市中央区黒髪2-27-21 TEL:096-343-1432 kwaryokwai@gmail.com

■ 男子寮 ○ 男女共同寮 ▲ 他大学生会相談

NEWS

各地の動きをご紹介します。

●「第44回全国学生YMCA夏期ゼミナール」を開催

——日本YMCA同盟

日程：9月9～12日、場所：東山荘

学生自身が企画・運営を担い開催される、学生YMCA全国プログラムの夏期ゼミナール（通称夏期ゼミ）。第44回を迎えた今年は「Stand By Me/You～生きづらさと向き合う～」のテーマの下、全国20大学から学生・OBOG（シニア）・講師・スタッフら、延べ82人が参加しました。

土井隆義氏（筑波大学教授、社会学者）による講演では、価値観の多様化や人間関係の流動化によって生まれる若者の生きづらさが、私たちの想像以上に深刻なものであることを学びました。これまでの家族や地域といった既存の所属や関係性が薄まり、居場所の基盤が揺らいでいる現代社会では、その代替としてSNSやインターネットで同じ価値観の人びとが集まり、人間関係の同質化細分化が生まれています。閉ざされた人間関係の中で、互いにキャラを演じ、空気を読み合う息苦しさが蔓延しているのです。問題行動を起こしてしまう非行少年たちの背景には、個人の努力では乗り越えられない貧困などの社会構造に加えて、このような関係性の分断や内閉化が影響しており、これは私たち自身も日々体験していることでもあります。異質な他者との出会いや関わりが、実は私たち自身の欠陥や弱さを補っており、特に若い世代にこそ必要なのだと土井氏の言葉に、多くの参加者が共感しました。

聖書研究では、西川晶子氏（日本福音ルーテル室園教会牧師）を講師に「善いサマリヤ人」のたとえ話（ルカによる福音書10：25-37）を取り上げました。東山荘内を一人で自由に過ごしながら、聖書の言葉と自分自身に向き合う時間や、グループでそれぞれの思いを分かち合う時間など、「1人で/みんなで」聖書の言葉を深く味わう機会となりました。隣人とは誰か、私が隣人になるためには、などについて考え、最後に西川氏から「傷ついて倒れてしまった私を助けてくれる存在。境界線を越えて気付いたらそばにいる存在、それが神さまやイエスさまだ」と語られ、他者と寄り添い生きる希望の言葉を聴きました。

多様なプログラムを通して、互いの声に聴き合った参加者たちは、隣人となる歩みを各大学YMCA活動につなげるべく、各地へと戻って行きました。日本YMCA同盟 森 小百合



●ユース・ピース・キャンプ報告

～Going beyond the difference～ YMCASETOUCH

2006年に発生したジャバ島中部地震を支援するために、2007年よりインドネシア・ジョグジャカルタで始まったユース・ワーク・キャンプ。その後ユース・ピース・キャンプとして引き継がれ、2015年には9回目を数えました。今年は10回目の節目のキャンプを計画していましたが、7月にジョグジャカルタ近郊でテロ事件があり、やむなく中止となりました。しかし、ピースキャンプをテロ事件のために中止するというのは、なんとも皮肉なもの。そこで、今年度はインドネシアと台湾のユースを岡山に招くことにしました。



長泉寺の宮本住職は、子どもたちYMCAでサッカーをしていた元メンバー

9月7～14日のキャンプに参加したユースは、インドネシアから6人、台湾から3人、そして日本国内からは5人。私たちが掲げたテーマは、「宗教は平和をつくり出すことができるのか」「私たちは違いを乗り越えることができるのか」でした。

そこで、真言宗長泉寺（仏教）・黒住教（神道）・岡山信愛教会（キリスト教）・岡山イスラミックセンター（イスラム教）の各宗教施設を訪ね、それぞれの平和観や人間観について学ばせていただきました。唯一の神を信仰するキリスト教やイスラム教、すべてのものや現象の中に神を見る神道、唯一絶対の神の存在はないが、「私」とはどのような存在なのかを突き詰める仏教。しかし、違いを超えて、すべての根底にあるものは、「幸せ」であり「平和」であろうとする姿でした。

期間中、ユースたちに「平和のイメージ」と「平和ではないイメージ」を描いてもらいました。平和のイメージは、どの参加者もさまざまな色のクレヨンを使い、カラフルな絵を描きました。この色は多様性の象徴です。平和とは多様なものが認められ、受け入れ、尊重されるものではないでしょうか。



ユースが描く「ピース」のイメージ

私たちは人種も言葉も肌の色も、宗教も文化も違いますが、同じ命を与えられた存在です。その私たちが共に、平和な世界をつくり出していくことの大切さを、各地域から集まったユースたちが、あらためて考える機会となりました。

YMCASETOUCH 白鳥 雅人

アジア・世界のYMCAから

◆YMCA地球市民育成プロジェクト夏期研修 —日本YMCA同盟

グローバル時代を生きるユース世代の分析力、対話力、行動力を引き出すことをテーマに通年で実施中の「YMCA地球市民育成プロジェクト」。その夏期研修が、8月29日から1週間、YMCA東山荘で行われ、国内研修生30人と中国、韓国、台湾、香港、カンボジア、東ティモールからのユース14人が参加しました。海外参加者からの声を取り入れたケーススタディなどの取り組みを通して、「一人ひとりがプロジェクトをつくるリソース」であることを参加者が体感しました。



カルチャーナイトで文化交流

◆「チェンジ・エージェント」グローバルギャザリング —世界YMCA同盟

60カ国から100人以上のチェンジ・エージェントがチェンマイに集まって行われたグローバルギャザリング。「所属するコミュニティの課題に対して変革を起こす」ことを託された若者たちが、それぞれのプランを持ち寄り、社会の課題についてのディスカッションを重ね、思いを共有しました。それらには、不正義への怒りや、深い信仰への気付きなどが含まれています。日本からのチェンジ・エージェントは6人。彼らの2年間の任期は今年の12月に終了しますが、YMCAや社会へのインパクトは今後も長く続くことを期待しています。

◆東ティモールYMCA訪問 —アジア・太平洋YMCA同盟

首都ディリにある東ティモールYMCAの主要なプログラムはサッカーです。若者に人気のスポーツであるサッカーは、個々の能力を高めるだけでなく、ユース（若者）の活躍の場となり、エンパワメントの機会となります。今は、海外のYMCAからのサポートにより運営している東ティモールYMCAですが、スタッフや会員が協力し合うことで、数年後には自分たちの力で活動を進めることを目指しています。

●上記トピックの詳細(隔月PDF)は、日本YMCA同盟HPの「世界のYMCA」のページよりご覧いただけます。 <http://www.ymcajapan.org/world/index.html>

●「福岡YMCA 留学生スピーチコンテスト 2016」報告

——福岡YMCA

9月15日、福岡YMCA専門学校日本語科留学生スピーチコンテストを開催しました。本校在籍生のうち8人の出場者が、約100人のお客さまの前で堂々とスピーチを繰り広げました。

審査は福岡YMCA賛助会、理事、中村学園大学学長など7人の審査員と約100人の一般審査員（観覧者）が務めていただきました。

各出場者には、サポーターが1人ずつ付きます。出場者の原稿作成から発音や声の大きさなど、スピーチの練習までをサポートするこの役割を、本校近くの中村学園大学の学生の皆さんに依頼しました。出場者とサポーターが1カ月かけて、二人三脚で作り上げていったスピーチはどれも熱がこもっており、大きな拍手を浴びていました。

出場者たちは、日本人の瘦せ志向への提言、いつまでも外国人扱いされることについて、国による年齢の数え方の違いとその文化的背景など、八者八様のテーマでスピーチを発表しました。その中で1位に選ばれたのは、マレーシア出身の LEE YIH FUNG（李 昱瀾）さんでした。テーマは「夢を追いかけて」。14歳から習い始めたピアノを必死に練習した結果、中国の音楽大学に合格、その後さらに音楽と文化のつながりを学ぶために日本の大学院への進学を希望し、そのためにYMCAに進学したことを堂々と話してくれました。豊かな表現で審査員の心をしっかりとつかみ、接戦を制したLEEさんは「しっかり準備してきたと自負していました。自転車で通学している間も練習していました。その努力がお客さんに伝わって良かったです」と喜びを語ってくれました。



優勝したLEEさんのスピーチの様子

本日は開講して9年目を迎えます。地域の方々へ留学生の日々の努力と福岡YMCAの日本語教育を広く・深く知っていただけるように今後も努めてまいります。

福岡YMCA 松隈 育子